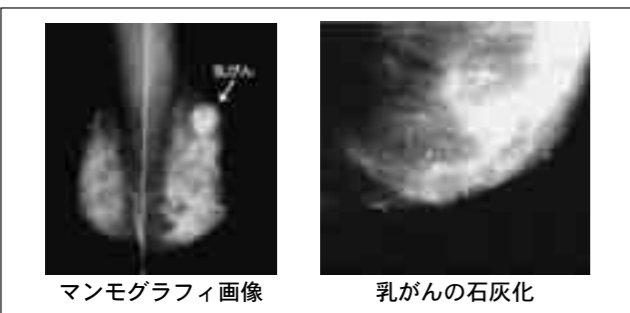


に出来る微小石灰化(乳癌による非常に小さな石灰化)や触診のおずかしい小さな腫瘍陰影を描出することもできます。マンモグラフィの検査はそういった微小石灰化の早期発見、またそれが良性なものか否かの診断に大変有効です。



#### ◆実際の撮影は…

検査方法は、2枚のプラスチック板の間に乳房をはさんで圧迫し、上下や左右方向から撮影します(写真)。通常は左右を比較するために両方の乳房を2回ずつ、合計4回撮影します。異常が疑われた場合には、スポット撮影や拡大撮影を追加することがあります。検査には10分~20分かかりますが、実際にX線が放出されるのは数秒です。



#### ◎マンモグラフィって痛いと言いますが…

**A**正しい診断の元となる写真を撮るためには、乳房を圧迫して撮影する必要があります。

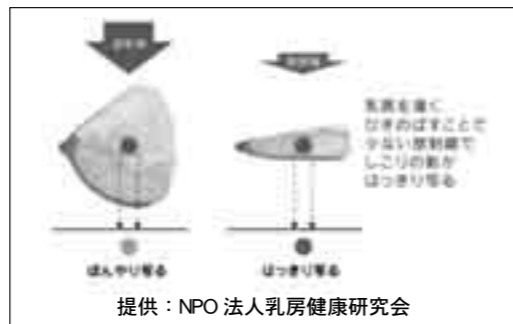
よいマンモグラフィを撮影するためには乳房を圧迫することがとても重要です。というのは、透過力の弱い軟X線を用いているため、圧迫して乳房の厚さをできるだけ薄くし、細かい乳腺や脂肪組織を写し出す必要があります。こうすることによって、小さな病変を見つけやすくなり、乳房の被ばく線量も少なくすることができます。また、圧迫時は機械的に一定以上の圧力はかからないように設計されていますのでご安心ください。

ただし、年齢などにより個人差はありますが、一般的に月経が始まる直前はホルモンの影響で乳房が張り、人によっては撮影時の圧迫によって痛みを感じる場合があります。また、乳腺炎や乳腺症の既往がある人も強い痛みを感じる場合があります。閉経前の人では月経後の乳腺のやわらかい時期(月経開始後7~10日)に検査を受けるのが適しています。痛みが我慢できない際は遠慮なく撮影技師に申し出てください。適宜対応いたします。

#### ◎被ばくが心配で…

**A**X線の量は少なく、ほとんど危険はありません。

人間は普通に生活していても宇宙や大地などから自然に放射線を浴びています。1年間に浴びる自然放射線は2.4mSv(ミリシーベルト:放射線の単位)といわれています。マンモグラフィでは1回の撮影あたり0.1~0.2mSvです。これは東京からニューヨークへ飛行機で行く時に浴びる自然放射線の約半分といわれています。したがって、マンモグラフィ撮影によって健康に影響を及ぼすことはありません。早期乳がんが発見できることのメリットのほうがはるかに大きいのです。



ただし、妊娠中、授乳中に検査を受ける人や、妊娠の可能性のある場合は必ずお申し出ください。実際には悪い影響はありませんが、検査法によっては注意すべきことが異なりますので、撮影を検討させていただくことがあります。

#### ◎マンモグラフィで乳がんを診断できないことはあるの?

**A**マンモグラフィですべての乳がんが見つかるというわけではありません。

マンモグラフィは、手には触れない非常に早期の乳がんのサインである石灰化をピックアップできるため、全く症状のない人たちを対象とする検診の方法として大変優れています。しかし、乳腺の密度が高い人の場合、乳腺に隠れてしまい異常と正常の区別がつかない場合があります。

一般的に乳腺は年齢とともに委縮し、脂肪へと置き換わっていきます。完全に脂肪に置き換わった乳房ではがんがはっきりと写るため、見落とす事はありませんが、若い人の乳房では乳腺組織が多く存在するため、がんが正常乳腺のなかに隠れてしまい、異常所見を見つけていくことが難しくなります。

若年の人や授乳中の人などは特に乳腺の密度が高く、こういった方には超音波検査が適している場合もあります。

(資料提供: NPO 法人 乳房健康研究会 「マンモグラフィQ & A」, 「プレストケアと乳がんについてお話ししよう」)

『マンモグラフィあれこれQ & A』は厚生労働省及び国立がんセンターがん対策情報センターより発表されている統計データ等をもとに制作しています。無断で印刷・複製・転用・引用等の二次利用はおやめください。



本邦では、食生活の欧米化とともに動物性脂肪の摂取量が増加し、それに伴って、乳がんが急増しています。現在、年間約4万人の女性(女性が一生で乳がんにかかる割合は23人に1人)が罹患しており、女性の悪性疾患第1位になりました。本邦の乳がんは若い年齢で発症するのが特徴で、30歳代から増えはじめ、40歳以上になると急カーブで増加します。最近当院では、20歳代の乳がんを経験しました。乳がんは今や欧米並みに増えてきましたが、それにもかかわらず、日本の乳がん検診率は、欧米の70%には遠く及ばず、わずか15%程度に過ぎません。しかもマンモグラフィでの検診率は低く、その精度も満足できる状態にはありません。欧米では、マンモグラフィ検診により、早期乳がん発見率が視触診のみの検診に比し3倍に向上することが証明されています。このような背景から、厚生労働省は、平成16年、40歳以上の女

性に対して視触診のみならず一次検診へのマンモグラフィ検査の導入を勧告しました。

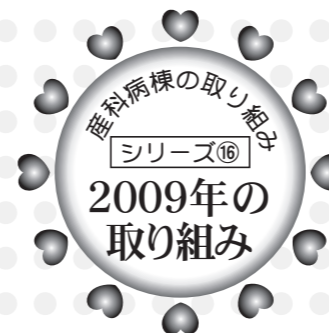
マンモグラフィ検診で、正しい診断を行うためには、①施設・機器の精度、②技師の撮影技術、③医師の読影能力、という3つが求められます。日本乳がん検診学会など6学会で組織した「マンモグラフィ検診精度管理中央委員会」では、これ等の精度管理において、一定以上の成績を上げた医師・技師・施設に対して認定を行っていますが、この度、当院では、これらの厳しい条件をクリアして無事認定施設として認可を得ることが出来ました。安心・安全・良質な医療を提供すべく努力してきた私たちにとっては、大変嬉しいことと考えております。十勝地区では、帯広市内の病院を除きますと当院が初めての認定施設となります。乳がんは早期発見がやすく、定期的に検診を受けていれば、たとえかかっても治る可能性の高い病気です。皆様のご来院を心よりお待ちしております。

(公立芽室病院 副院長 小窪 正樹)

今回ご紹介したマンモグラフィQ & Aの詳細版を当院ホームページにて公開しております。ぜひご覧ください。

公立芽室病院

検索



当院がBFHの認定を受けて2年半が経過しました。私たちは更なるお母さんと赤ちゃんにやさしい病院を目指して日々奮闘しています。今回は、今年のBFHに対する産科病棟の取り組みについてお知らせします。

今年メインとなることは2つあり、1つは毎年8月の世界母乳育児週間に開催される「母乳育児シンポジウム」への参加です。18回目を迎える今年は、札幌市で開催されます。道内でBFHに認定されている3か所の施設(当院、旭川医大、北見日赤)の会員が中心となり、全国各地から集合する母乳育児と母乳支援に関わる1200名あまりの会員のため、充実した会になるよう月に1度札幌に集まり準備を進めています。勤務の合間の休日に出かけ大雪などのハプニングに見舞われながらも、頑張っています。

もう1つはBFHに認定されてからの3年間の母乳率の変化をまとめる作業です。これは来年の母乳育児シンポジウム(仙台市で開催)で報告することになっています。このまとめは今後も3年ごとに報告し、BFH認定施設として適正かという判断基準になるものです。これからも院内はもちろん、芽室町、そして十勝全体の母乳育児支援の中心であり続けられるように取り組んでいきたいと思っております。

### ★はぐ Hug のご案内★

- 2月18日 「お産のはなし」
- 3月18日 「子育てと親子遊び」
- 4月15日 「トイレトレーニング」

場所: 公立芽室病院 3階研修室

時間: 10時~12時

申込みは不要です。出入り自由です。どの病院に通われていてもOKです。混合・ミルクの方も参加できます。

参加費: 100円

問い合わせ: 公立芽室病院産婦人科病棟 ☎62-2811(内217)

